

第11回 埼玉県高齢者福祉研究大会 研究発表内容（順不同）

	事業所名	発表の題名（タイトル）	発表の内容
1	特別養護老人ホーム あけぼの	アロマでリラックス	アロママッサージを通じて職員と利用者様との関わり合いや睡眠についてどのような変化が見られるのか。
2	総合ケアセンターリ バー・イン	チームで取り組む『口腔 ケア』	医師・歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士・看護師・介護士・介護支援専門員等の施設における専門職と外部の専門職が連携し、それぞれの視点から利用者の口腔ケアの向上を考えて、取り組んでいる事例です。
3	川口市神根東地域包 括支援センター	小中学校の認知症サポ ーター養成講座	小中学校へ認知症サポーター養成講座開催するための、アプローチの仕方。どのようにして開催をできるようになったか。継続してもらえる取り組み。
4	埼玉さくらんぼ1番 館	埼玉さくらんぼ館におけ る看取りケア導入におけ る考察	施設開設から、看取りをしていく過程で、介護職員の心理的な負担感や家族へのグリーフケア、嘱託医との連携についての流れを振り返り、今後の展望を考察する
5	緑水苑指扇	特別養護老人ホームにお けるアクティビティケア の実践と効果	当法人では、特別養護老人ホームにおけるご利用者様へのレクリエーション支援の意義を再認識し、それらをより効果的なものとすべく「アクティビティケアチーム」というレクリエーション支援の専門部署を組織致しました。介護職員の中から「担当者」が持ち回りで実施したり、そういった企画が「得意な職員」が通常業務と並行して運営したり、という取り組み方が一般的かと思われませんが、深刻な人材不足が叫ばれる昨今、介護職員がレクリエーション支援の企画の為に時間を捻出することが難しいという問題も発生します。しかしながら、ご利用者様の余暇時間の充実、QOLの向上等を鑑みますと、決してないがしろに出来ない取り組みであることは間違いありません。当法人でもそのジレンマに対峙した末、専門部署の組織という決断した次第です。人件費その他、運営上のデメリットも大きく考えられますが、それ以上のメリットを感じておりますので、その部署の活動の一部をご紹介します。

6	特別養護老人ホーム 吹上苑	ダイバーショナルセラ ピー ～ルームビジット の取り組み～	Diversional Therapy (ダイバーショナルセラピー) とは、オーストラリアから始められた総合的な手法です。Diversion (ダイバージョン) とは、「気分転換、気晴らし」という意味で、高齢や障害、認知症等により身体的、精神的機能に低下がみられても、その人の持てる可能性を見つけ、楽しさや幸福感の方向へ気分転換を図る、あるいは別の可能性が開く手法です。吹上苑では、生活に潤いが持てるよう、10種類のプログラムを実施しています。音楽クラブ、パブリック園芸、パドル体操、苑内喫茶、書道教室、お茶会、ルームビジット、栄養課出張寿司、パブリックシネマ、大人の塗り絵クラブがあります。今回は、ルームビジットの活動について紹介します。
7	しょうぶ苑	事故防止委員会からの発信～リーダーになって5年の経験を活かした取り組み～	施設内で起こりうる利用者の色々な事故を検証し、データ化することにより再発防止に向けた取り組みを行っています。また、職員の不注意による事故を起こさないための取り組みも重要です。事故防止委員会は多方面から毎月、職員へ発信。この5年間の軌跡をご覧ください。
8	真寿園	「トイレに行きたい」を叶えるために～リフトを導入したことよっての成果～	当施設の入居者H様が介助にてトイレで排泄を行っていた。H様は体格の良い男性の為、状態の変化と共に1人介助で抱えることが難しくなり、職員2人対応となる。しかし、職員1人対応時にトイレの希望があった際には、手伝いの職員が来るのを待つことが多くみられた。その現状の中、H様の「トイレに行きたい」という意向の実現の為、介助方法に関して姉妹法人の理学療法士に相談し、いくつか福祉用具を評価した。そのような時期に福祉機器展に参加し、立位補助リフトを体験した。そして、H様に使う事ができないかと思い、職員から施設にお願いし導入にいたった。業者と理学療法士を中心に、リフトの使用方の勉強会を行う事で、多くの職員が福祉用具を使う事が出来る様になり、H様以外の入居者にも使用してもらうことが出来た。H様の「トイレに行きたい」という意向の実現の為に、リフトを導入した経緯とその成果について事例を通して発表します。

9	鶴寿荘 介護老人福祉施設	彩の国あんしんセーフティネット事業 4年間の取り組みと今後の展開	彩の国あんしんセーフティネット事業が地域の生活困窮者支援の有効な資源として認知され、関係行政課や機関、また民間団体や地域住民との協働が、活性化するために取り組んでいることを報告し、今後の展開を描きます。
10	特別養護老人ホーム常磐苑	いつまでもトイレで排泄～立位保持リフト活用によるトイレトレーニングの推進～	特別養護老人ホーム常磐苑では「コンチネンスケア」を軸とした個別排泄ケアを推進しています。今年度より導入した立位保持リフトを活用したトイレでの排泄支援の取り組みをご紹介します。
11	特別養護老人ホーム久喜の里	福祉用具・介護ロボットの活用について～この研究発表、半端ねー！楽々移乗介助～	利用者に合った「移乗」、利用者・職員にとって安全で負担の少ない介助方法を探求する。
12	パストーン浅間台	福祉施設が地域資源となるために	福祉施設にある資源（ヒト・モノ・場所等）を地域に活用していただくための3年間の実践報告と地域包括ケアシステムに関する考察。きっかけは特養のスタッフの力を、地域に活用していただきたいという想い。彩の国あんしんセーフティネット事業での関わりから、資源開発・ネットワーク構築が行われた。自法人の新規サービス（福祉有償運送 定期巡回随時対応型訪問介護看護 総合事業通所型サービスA）への参入と構築地域の資源開発への地域の方との協働とその支援。地域包括ケアシステムに関する考察・課題・今後
13	悠う湯ホーム	ICTを活用した生産性向上の取り組み	私たちの施設では、日々の介護業務の生産性向上に取り組んでいます。取り組みの中で、シフト毎に業務を紐付けしている現状を分析した結果、作業人員・作業時間が固定されていることにより起こる弊害（その日の職員出勤状況により各業務に対する時間の過不足が起きやすい、介護の個別対応をしにくい等）が課題に上がりました。そこで現在は、それらの解決のためにスマートフォン・タブレットと各種アプリケーション（ラインワークス、グーグルスプレッドシート、zello等）を投入し、利用者個人別日課表の共有やインカムによる職員間連絡等、シフト毎の業務から利用者・時間帯毎の業務に紐付けし直す作業を進めています。今回は、この取り組みの詳細について発表します。

14	敬寿園（大砂土デイサービスセンター）	友活！？	日々の業務の補助的なお手伝いとして募集させて頂いたボランティアの方々。実際にお手伝い頂く中で、想像もしなかった効果や、思いがけない課題の発見等、サービス提供にあたり、様々な面で力を発揮して頂いております。その課題や効果の内容を研究していきます。
15	特別養護老人ホーム 熊谷ホーム	排泄への取り組み～膀胱留置カテーテルを無くし、トイレでの排泄を～	膀胱留置カテーテルをつけている利用者の方がトイレでの排泄を希望され、本人の希望に添える為に取り組みや過程を発表。
16	特別養護老人ホーム 草加園	一度失った心のケアについて	Sさんには、40代でリウマチ、平成28年6月に転倒による胸椎・腰椎圧迫骨折の既往があります。平成28年11月に草加園へ入所されました。入所当初は、リウマチがある中での細かな手作業や読書をされたりと、ご自身のペースで生活されていましたが、平成28年12月～平成29年3月の期間、急性膵炎による入院を余儀なくされました。退院後は、ADL・QOLの低下が見られると共に、読書や趣味的活動もされず、生活に対する意欲が無く1日を過ごされる様になっておりました。もう一度、入院前の様に、趣味的活動を勤んでいた頃の生活が送れる様、支援が出来ないか考え、取り組んで参りました。今回は、その取り組みについて発表させて頂きます。
17	特別養護老人ホーム ルーエ	透析患者様に寄り添う	透析治療を受け食事、水分制限がある入居者様のそれぞれの食事等の欲求をかなえるため、医療との連携に努めながら、自己決定を尊重し、特養での暮らしを豊かにする取り組み。

18	特別養護老人ホーム 杏樹苑爽風館	ユニットケアの視点から 入居後の生活落差を少なく することで入居生活を 豊かなものに	ユニット型施設の全体構造の基本的原則に、建物の理論として、暮らしを営む場所であるユニットと、暮らしを豊かに楽しむ場所である、ユニットを越えた交流の場、地域に開放されている場所と言った段階的に空間が構成されているとした考え方がある。これは入居前の生活と入居後の生活が継続したものになるよう生活落差を少なくする手法の一つとして位置づけられている。そこでそのユニットを越えた交流の場と地域に開放された場所を使い入居されている方が地域で生活していることを忘れず、自己選択を行うことが出来るサークル活動とユニット行事等のアクティビティ環境を通じて、安心して豊かな生活を楽しんで頂くための施設作りを心がけた現在までの取り組み結果を発表したい。
19	高齢者総合ケアセンター マザーアース	認知症ケアにおける音楽 療法の効果と今後の展望	当施設では、認知症ケアの一貫として音楽療法を取り入れています。音楽療法とは音楽の持つ働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持、QOLの向上、行動変容などに向けて音楽を意図的、計画的に使用することとされている。日々の生活において歌唱、楽器活動を中心としたプログラムを実施した効果、また今後の課題について発表します。
20	特別養護老人ホーム 和光苑	広域災害の備えた取り組み	私達の施設は、防災委員を主体に月1回の防災訓練を実施しています。東日本大震災後、震災発生時に同規模の被害を受ける可能性が低く、親密に連携が図れる距離に位置する事業所と平成25年に防災協定を締結し、定期的に意見交換会、合同訓練を行っています。災害への備え、ご利用者、自分自身の安全のためにも、防災の取り組み、どのように行動すれば良いのか知る事が大切です。[br] 施設内での防災訓練、災害発生時の対応（BCP）について。防災協定を締結した経緯と合同訓練を重ねる事により見えてきた課題、メリット、防災委員になって学んだ事を発表します。

21	特別養護老人ホーム 安誠園	職員が「考え、動く」ための介護ロボット ～1年間の取り組みを経て～	平成29年2月に介護ロボット「マッスルスーツ」を導入したが、装着に時間がかかる等の理由から当初は定着しなかった。介護ロボット活用のために発足した介護ロボット委員会は10カ月にわたり、コンサルティングを受け活動を続けてきた。コンサルティングを通して、「ロボットを活用することで、ご利用者とコミュニケーションを図る時間を作る」ことを目標に、介護ロボットの活用そのものだけでなく、業務の効率化についても考え、実践することができた。1年以上が経過した現在でも、職員が主体的に考えながら、介護ロボットを活用することができている。
22	むさしの園デイサービスセンター富士見	「ひもときシート」を活用した認知症ケア	「ひもときシート」を活用した事例発表です。職員全員がシートを記入し、認知ケアにおける援助者自身の思考の転換を行い、本人視点の課題解決の糸口を見つけ、日々の介護に生かしていく取り組みの発表です。
23	特別養護老人ホーム 扇の森	あなたの栄光時代はいつですか～大切な思い出を日々の生活の中に～	昔の写真や当時の出来事をまとめたメモリアルブックを作成し、対象者の過去をもとに回想法を実施。スタッフが入居者様の生い立ちを知り、入居者様の生活意欲が向上され、日々の充実を感じて頂くことを期待したアプローチを行った結果について報告する。
24	特別養護老人ホーム 小鹿野苑	ユマニチュードによる BPSDの改善	ユマニチュードの実践に向けて、取り組み内容についての話し合いや、対象者のBPSDの改善に向けて、実際に取り組んだ変化について発表する。
25	埼玉県内5法人6施設の 合同発表	介護ロボット	未定
26	秋草学園福祉教育専門 学校	こんな介護福祉士になりたい（仮）	実習の経験と普段の授業内容を踏まえて、学生がどのような介護福祉士に憧れ、目指していきたいと考えるかを明確にし、自分たちの目標となる介護福祉士像を構築する。（仮）
27	埼玉福祉・保育専門 学校	住み慣れた地域で暮らす ために	介護福祉士科の学生と仲町3丁目に住む高齢者の方と協働して「健康的に集う会」を計画・実施をした。学生だけで企画運営を行うのではなく、地域の方々もと話し合い、双方が力を出し合うことができたことを発表したい。

28	埼玉福祉・保育専門学校	一人ぼっちなKさん	小規模多機能型施設に利用している、一人の独居利用者に視点を持った。「食事は作らない」と言っていたが、情報収集をし関わっていくうちに自ら食事を作るようになった過程を発表したい。
29	埼玉福祉・保育専門学校	あっ！いつのまに！楽しみながらリハビリを	本校では実習以外に現場力を高めるためにスポーツ・リハビリという専攻授業を実施している。最後には実際に現場に出てフィールドワークを実施している。[br]そのフィールドワーク先では学校で学んだことを中心にアクティビティを立案・実施・修正した。[br]学生でもできることの取り組み内容を発表したい。